

成人看護学

1. 考え方

成人とは、青年期、壮年期、向老期と人生で最も長いライフサイクル上で、身体的には成長・成熟・衰退と変化し、精神的には発達課題を達成する中で成長しつづける存在である。成人看護における看護の対象は、社会や家庭において中心的な役割や、責任をもちながら生活をしている。その対象にとっての「健康」とは何かを考え、医療が必要となった時にも、その人らしく安心して生活が送れるように一人ひとりの立場や役割、生活習慣と関連付けて考える分野である。

日々発展し続けている医療の中で対象を総合的な視点からアセスメントし、看護を実践する能力を養うことを目標とする。

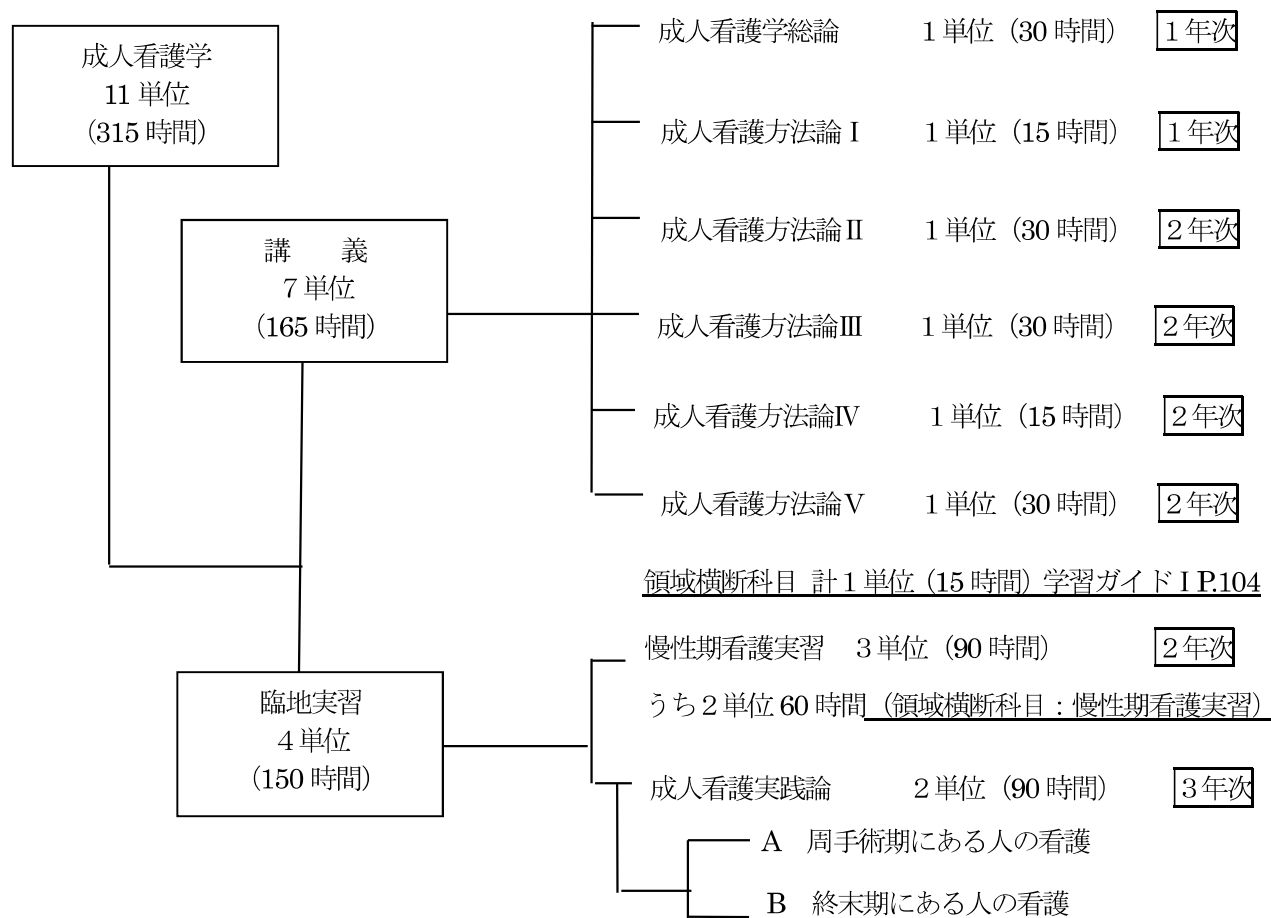
2. 目的

あらゆる健康レベルにある対象に対し、健康の保持・増進・疾病の予防・回復に向けての看護を実践できる能力を養う。

3. 目標

- 1) 成人期にある対象の生理的・心理的・社会的・霊的特徴について学ぶ。
- 2) 成人期にある対象の健康に影響する因子を理解し、看護上の問題を明らかにする。
- 3) 成人期にある対象とその家族の健康状態に応じた看護の方法を学び実践する。

4. 構成



学科目 (単元)	成人看護学総論	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	全期
目的	成人期は人生の中でいちばん長く、変化の著しい期間である。家庭や職場、地域社会でさまざまな役割をもつ成人期にある人の健康の保持・増進や疾病を予防する看護について統合的にとらえ理解する。また、成人期にある人は、活動性や価値観も多様であり、それに伴い健康観も様々である。成人看護に有用な理論を学び、各健康段階にある人の複雑な心理・行動学的な反応を多角的多面的にとらえ、その心理や行動を分析し対象理解を深めて看護に活用する。						
到達目標	・成人期の特徴や成人の生活と健康障害について関連付けて説明する。 ・成人期にある対象の健康の保持・増進や疾病予防の必要性について述べる。 ・成人期にある対象の看護に必要な基本的な関わり方について、例を用いて説明する。 ・保健指導作成過程において、自己の見解を示す。 ・各健康状態にある対象者や家族の特徴について説明する。 ・各健康状態にある対象者や家族の看護の特徴について説明する。 ・成人期にある対象を看護するときの基本的な関わり方について、例を用いて説明する。 ・事例を用いて、どのように理論を看護に適用したらよいか気づきを示す。 ・グループワークに積極的に参加し、協同学習の姿勢を身につける。						
授業計画	1. 成人期にある対象の理解 発達段階と発達課題 成人各期の特徴 2. 成人期にある対象の理解 生涯発達の特徴 健康の保持・増進・疾病予防 3. 生活習慣に関する健康障害 4. ストレスに関する健康障害 職業に関する健康障害 5. 成人期にみられる健康障害から保健指導を考える（グループワーク） 6. 成人期にみられる健康障害から保健指導を考える（グループ発表） 7. 成人保健の動向（成人保健の動向と政策） 8. 身体機能の変調に合わせた看護：①急性期・回復期にある人の看護 9. 身体機能の変調に合わせた看護：②慢性期・終末期にある人の看護 <成人看護に有用な理論・モデルの考え方、看護への適応方法> 10. 「アンドラゴジー」「エンパワメント」 11. 「自己効力」 12. 「行動変容モデル」 13. 「ストレスコーピング」 14. 「危機」 15. 学習時間あり・単位認定試験						
方法 教育	講義・協同学習						
助言 履修上の	成人について理解が深められるように、対象理解を基盤に授業を進めていきます。新聞や雑誌・テレビなどを活用して世の中の動向に目を向け、成人期の人の生活や健康障害について考えながら学習をしましょう。 授業では、事例を活用しながら理論やモデルをどのように看護へ適用していくかを考えます。						
テキスト 参考書	ナーシング・グラフィカ 系統看護学講座 系統看護学講座	成人看護学概論 臨床看護総論 成人看護学総論	メディカ出版 医学書院 医学書院				
方法 評価	筆記試験						

学科目 (単元)	成人看護方法論Ⅰ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	1 年	後期
目的	運動機能障害、脳神経機能障害を持つ人の身体的・心理的・社会的側面を理解し、対象の QOL の維持、向上につながる看護を学ぶ。						
到達目標	- それぞれの症状の観察とアセスメントを関連づける。 - 治療・検査・処置に伴う対象の心理について気づきを示す。 - 治療・検査・処置・障害受容のプロセスに応じた看護について説明する。 - 対象の QOL の維持・向上のための看護について説明する。						
授業計画	【 運動機能障害を持つ人の看護：6 時間 】 1. 運動機能障害を持つ人の特徴 2. 症状の観察とアセスメント 3. 治療、検査、処置に伴う看護 4. 障害受容プロセスに応じた看護（社会生活への援助） 【 脳神経機能障害を持つ人の看護：8 時間 】 1. 脳神経機能障害を持つ人の特徴 2. 症状の観察とアセスメント 3. 治療、検査、処置に伴う看護 4. 障害受容プロセスに応じた看護（社会生活への援助） 単位認定試験（学習時間なし）						
教育方法	講義・協同学習						
履修上の助言	解剖生理学Ⅰ、病態治療論Ⅱ（運動器・脳神経）、看護技術論Ⅵ（歩行・移乗・移送の基礎知識）、成人看護学総論と関連があります。復習をして講義に臨んでください。						
テキスト 参考書	系統看護学講座 系統看護学講座	成人看護学〔7〕 成人看護学〔10〕	脳・神経 運動器	医学書院 医学書院			
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	成人看護方法論Ⅱ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	2 年	全期
目 的	悪性腫瘍やアレルギー疾患、免疫機能障害、代謝・内分泌機能障害、および消化器機能障害、腎・泌尿器機能障害、女性生殖器機能障害を持つ人の身体的・心理的・社会的側面を理解し、対象の QOL の維持、向上につながる看護を学ぶ。						
到 達 目 標	- それぞれの症状の観察とアセスメントを関連づける。 - 治療・検査・処置に伴う対象の心理について気づきを示す。 - 治療・検査・処置・障害受容のプロセスに応じた看護について説明する。 - 対象の QOL の維持・向上のための看護について説明する。						
授 業 計 画	各機能障害について以下の①～④を学ぶ。 ① 機能障害を持つ人の特徴 ② 症状の観察とアセスメント ③ 治療・検査・処置に伴う看護 ④ 障害受容プロセスに応じた看護（社会生活への援助） 1. 血液・造血機能障害を持つ人の看護（4 時間） 2. 血液・造血機能障害を持つ人の看護 3. アレルギー疾患・免疫機能障害を持つ人の看護（4 時間） 4. アレルギー疾患・免疫機能障害を持つ人の看護 5. 代謝・内分泌機能障害を持つ人の看護（6 時間） 6. 代謝・内分泌機能障害を持つ人の看護 7. 代謝・内分泌機能障害を持つ人の看護 8. 消化機能障害を持つ人の看護（6 時間） 9. 消化機能障害を持つ人の看護 10. 消化機能障害を持つ人の看護 11. 腎・泌尿器機能障害を持つ人の看護（4 時間） 12. 腎・泌尿器機能障害を持つ人の看護 13. 女性生殖器機能障害を持つ人の看護（婦人科：2 時間） 14. 女性生殖器機能障害を持つ人の看護（乳腺：2 時間） 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教 育 方 法	講義・協同学習・演習						
助 言 履 修 上 の	解剖生理学Ⅱ・Ⅲ、病態治療論Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、成人看護学総論と関連があります。復習をして、講義に臨んでください。						
テ キ ス ト 参 考 書	系統看護学講座	成人看護学	[4]	血液・造血器		医学書院	
	系統看護学講座	成人看護学	[5]	消化器		医学書院	
	系統看護学講座	成人看護学	[6]	内分泌・代謝		医学書院	
	系統看護学講座	成人看護学	[8]	腎・泌尿器		医学書院	
	系統看護学講座	成人看護学	[9]	女性生殖器		医学書院	
	系統看護学講座	成人看護学	[11]	アレルギー 膠原病 感染症		医学書院	
評 価 方 法	筆記試験						

学科目 (単元)	成人看護方法論Ⅲ	講師名	学内教員 外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	2 年	前期																
目的	クリティカルな状態にある人、循環器機能障害、呼吸器機能障害を持つ人の身体的・心理的・社会的側面を理解し、対象の QOL の維持、向上につながる看護を学ぶ。																						
到達 目標	・それぞれの症状の観察とアセスメントを関連づける。 ・治療・検査・処置に伴う対象の心理について気づきを示す。 ・治療・検査・処置・障害受容のプロセスに応じた看護について説明する。 ・対象の QOL の維持・向上のための看護について説明する。																						
授 業 計 画	【クリティカルな状態にある人の看護：4 時間】 1. クリティカルな状態にある人とその家族の特徴と看護 2. 一次救命処置（胸骨圧迫、人工呼吸、AED）の演習 【循環器機能障害を持つ人の看護：12 時間】 1. 循環器機能障害を持つ人の特徴 2. 症状の観察とアセスメント 3. 循環器系のフィジカルアセスメント 4. 治療、検査、処置に伴う看護 ① 5. 治療、検査、処置に伴う看護 ②（心臓リハビリテーションなど） 6. 障害受容プロセスに応じた看護（社会生活への援助） 【呼吸器機能障害を持つ人の看護：12 時間】 1. 呼吸器機能障害を持つ人の特徴 2. 症状の観察とアセスメント 3. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 4. 治療、検査、処置に伴う看護 ① 5. 治療、検査、処置に伴う看護 ②（酸素療法・呼吸リハビリテーションなど） 6. 障害受容プロセスに応じた看護（社会生活への援助） 15. 学習時間あり・単位認定試験																						
教育 方法	講義・演習・協同学習																						
履修 上の 助言	解剖生理学Ⅱ（循環器・呼吸器）、病態治療論Ⅰ（呼吸器・循環器）、成人看護学総論と関連があります。復習をして、講義に臨んでください。																						
テキスト・ 参考書	<table><tr><td>系統看護学講座</td><td>成人看護学[2]</td><td>呼吸器</td><td>医学書院</td></tr><tr><td>系統看護学講座</td><td>成人看護学[3]</td><td>循環器</td><td>医学書院</td></tr><tr><td></td><td>臨床外科看護総論</td><td></td><td>医学書院</td></tr><tr><td>根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術</td><td></td><td></td><td>医学書院</td></tr></table>							系統看護学講座	成人看護学[2]	呼吸器	医学書院	系統看護学講座	成人看護学[3]	循環器	医学書院		臨床外科看護総論		医学書院	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術			医学書院
系統看護学講座	成人看護学[2]	呼吸器	医学書院																				
系統看護学講座	成人看護学[3]	循環器	医学書院																				
	臨床外科看護総論		医学書院																				
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術			医学書院																				
評価 方法	筆記試験																						

学科目 (単元)	成人看護方法論Ⅳ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 15 時間	2 年	前期
目的	慢性期にある人の身体的、心理的、社会的状況を理解し、継続的なセルフマネジメントに向けた看護について学ぶ。また、事例を用いて慢性期にある人の一連の看護過程を学ぶ。						
到達目標	・事例をもとに、看護過程を通して慢性期にある人にとって必要な看護について考え記述する。 ・対象を生活者と捉え、社会復帰まで見据えたアセスメントを行い、看護上の問題を抽出する。 ・個別性のある視点で看護計画を立案、実施する。						
授業計画	【成人期のセルフマネジメントを必要とする人の看護・事例展開】 1. 事例提示 カテゴリーの復習・簡易アセスメントの記載方法（講義） 看護計画の立案の考え方（講義） 2. 簡易アセスメントの発表と検討（グループワーク） 生理的様式のアセスメント発表と検討（グループワーク）① 3. 生理的様式のアセスメント発表と検討（グループワーク）② 4. 自己概念様式のアセスメント発表と検討（グループワーク） 5. 役割機能様式・相互依存様式のアセスメント発表と検討（グループワーク） 6. アセスメントのまとめ（講義） 7. 看護計画の発表と検討、実施（グループワーク、演習） 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
教育方法	講義・事例展開・協同学習・演習						
履修上の助言	看護技術論Ⅱ（看護過程）、成人看護学総論、保健行動科学の復習をして、講義に臨んでください。 春休み前に課題を提示します。課題は計画的に取り組みましょう。						
履修要件	看護技術論Ⅰ 単位修得 看護技術論Ⅱ 単位修得 成人看護学総論 単位修得						
参考書	ナーシング・グラフィカ ナーシング・グラフィカ 行動変容を促す看護 ザ・ロイ適応看護モデル、看護診断ハンドブック 看護過程に沿った対症看護			成人看護学概論 セルフマネジメント		メディカ出版 メディカ出版 医学書院 医学書院 学研	
評価方法	筆記試験 学習課題（授業概要参照）						

学科目 (単元)	成人看護方法論Ⅴ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	2 年	全期
目的	周手術期にある人の身体的、心理的、社会的状況を理解し、術前から社会復帰に至るまでの看護について学ぶ。また、事例を用いて周手術期にある人の一連の看護過程を学ぶ。						
到達目標	・周手術期看護の特徴と看護師の役割について説明する。 ・手術を受ける患者の身体的・心理的・社会的影響を述べる。 ・手術療法を受ける患者に起こりうる合併症とその予防のための看護について説明する。 ・手術療法を受ける患者の看護過程から回復を促進するための看護を理解する。 ・ペアワークやグループワークを通して、周手術期のアセスメントを深める。						
授業計画	1. 手術後の生体反応(神経・内分泌系反応、サイトカイン誘発反応) 2. 術後合併症予防の看護 ① 循環器 3. 術後合併症予防の看護 ② 循環器 4. 術後合併症予防の看護 ③ 呼吸器 5. 術後合併症予防の看護 ④ 疼痛 6. 術後合併症予防の看護 ⑤ 消化器、術後せん妄 7. 術後合併症予防の看護 ⑥ 創傷治癒過程、縫合不全 8. 術前評価と術前の看護 9. 手術室の看護 10. 周手術期にある患者の事例展開(手術前日) アセスメント検討・発表 (GW・発表) 11. 周手術期にある患者の事例展開(手術当日) アセスメント検討・発表 (GW・発表) 12. 周手術期にある患者の事例展開(手術1日目) 演習 13. 周手術期にある患者の看護実践(手術1日目) 演習 14. 周手術期にある患者の事例展開(手術3日目・退院前) アセスメント検討・発表 (GW・発表) 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義・事例展開・協同学習・演習						
履修上の助言	解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、総合治療論、病態治療論(Ⅰ～Ⅳ)、看護技術論Ⅱ(看護過程)、成人看護方法論(履修中のもの含む)の復習をして、講義に臨んでください。事前課題には計画的に取り組みましょう。						
履修要件	看護技術論Ⅰ 単位修得 看護技術論Ⅱ 単位修得 成人看護学総論 単位修得 総合治療論 履修						
参考文献	高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 医歯薬出版 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版 高齢者と成人の周手術期看護 3 開腹術/腹腔鏡下看護を受ける患者の看護 医歯薬出版 周手術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護 医学書院 系統看護学講座 臨床外科看護総論 医学書院						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	成人看護実践論 A (周手術期にある人の看護)	講師名	学内教員	単位 (時間)	2 単位 66/90 時間	3 年	全期
目的	手術が身体面・心理面・生活に及ぼす影響を理解し、心身の回復および社会復帰に向けた看護の基礎的能力を習得する。						
到達目標	・手術が対象の身体面・心理面に及ぼす影響を説明する。 ・症状に伴う苦痛の緩和、手術後の回復を促進する援助を実践する。 ・手術が与える生活への影響とその援助について考察する。						
授業計画	1 実習時間 45 分 1. 周手術期にある人の身体的・心理的变化を周手術期の経過に沿って理解する。 2. 病態・患者背景・治療・看護など収集した情報を日々アセスメントする。 3. 手術前の患者や家族の心理状態、手術の準備、術後合併症予防のための援助の実施。 4. 手術当日の援助、医師・病棟看護師・手術室看護師との連携と継続看護、チーム医療について学ぶ。 5. 症状に伴う苦痛の緩和、手術後の回復を促進する援助の実施。 6. 手術が与える生活への影響とその援助について理解を深める。 7. 手術後の日常生活や退院に向けて、回復を促進するための援助の実施。						
教育方法	臨地実習						
履修上の助言	実習オリエンテーションには必ず参加してください。 総合治療論、成人看護学総論、成人看護方法論Ⅰ～Ⅴの授業内容を復習して、実習に臨んでください。術後合併症のリスクや回復過程を予測した援助が必要になります。						
テキスト 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ・Ⅱ、各論 ナース・グラフィカ 成人看護学概論 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 高齢者と成人の周手術期看護 3 開腹術/腹腔鏡下看護を受ける患者の看護 周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護 系統看護学講座 臨床外科看護総論 ザ・ロイ適応看護モデル 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 看護がみえる Vol. 3 フィジカルアセスメント 医学書院 メディカ出版 医歯薬出版 医歯薬出版 医歯薬出版 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 メディックメディア						
評価方法	実習評価表 参照 成人看護実践論のうち、成人看護実践論 A は 90 点とする。						

学科目 (単元)	成人看護実践論B (終末期にある人の看護)	講師名	学内教員	単位 (時間)	2単位 24/90 時間	3年	全期
目的	終末期にある人とその家族に対する看護師とのかかわりを通して、その人の全人的苦痛の緩和とその人らしく生きていくことの意味について自己の考えを深める						
到達目標	1. 緩和ケア病棟の構造・特徴を知る。 2. 全人的苦痛（身体的・精神的・社会的・霊的苦痛）を知る。 3. 全人的苦痛を緩和する看護の実際を知る。 4. その人らしく生きる意味について考える。						
授業計画	1 実習時間 45 分 1. 終末期にある人（緩和ケアを必要とする対象）の理解と緩和ケア、家族ケア、エンゼルケア、グリーフケアなどについて事前学習する。 2. 緩和ケア病棟の看護師に同行し、ロールモデルの言動や態度、看護の実際を既習知識と結びつけて学びを深める。 3. 終末期にある人（緩和ケアを必要とする対象）との関わりを通し、身体的・精神的・社会的・霊的苦痛について理解を深める。 4. 終末期にある人（緩和ケアを必要とする対象）の苦痛緩和と QOL 維持・向上する看護や多職種によるチーム医療の実際から学びを深める。 5. 自身の経験や看護師の経験・実践知の語りなどを共有し、看護師の役割について学ぶ。 6. その人らしく生きる意味について考え、看護のあり方について考える。						
教育方法	臨地実習						
履修上の助言	オリエンテーションには必ず参加し、「終末期と看護」の授業内容を復習して、実習に臨んでください。 終末期にある人（緩和ケアを必要とする対象）の苦痛を和らげる援助や基本的な看護技術について、手順や留意点を事前学習し、まとめておきましょう。 積極的に質問し、カンファレンスでも意見交換を充実させ、多くのことを感じ、学んでください。						
テキスト 参考書	ナースিং・グラフィカ 緩和ケア メディカ出版						
評価方法	実習評価表 参照 成人看護実践論のうち、成人看護実践論Bは10点とする。						

老年看護学

1. 考え方

老年期とは、老化に基づく身体的な衰退と定年や子供の教育の終了に伴う社会活動の衰退をきたし、人生の終わりに向かって生きている特別な意味をもつ時期である。

老年人口が急増している現在、医療、福祉はいうまでもなく、教育や産業の分野でも高齢者問題が重視され、看護においてはその実践の範囲が施設内から地域へと拡大してきている。対象および家族が望む生き方を支援するためには、老化が身体的、精神的、社会的にどのような変化をもたらすのかということを理解し、様々な経験に裏付けされた知識や実績を豊富にもつ対象の価値観を尊重した看護が必要となる。

老年看護学では、高齢社会における看護の役割や老年期にある人の疾病の予防・回復、健康の保持・増進への援助を行うために必要な知識・技術・態度の習得を目標とする。

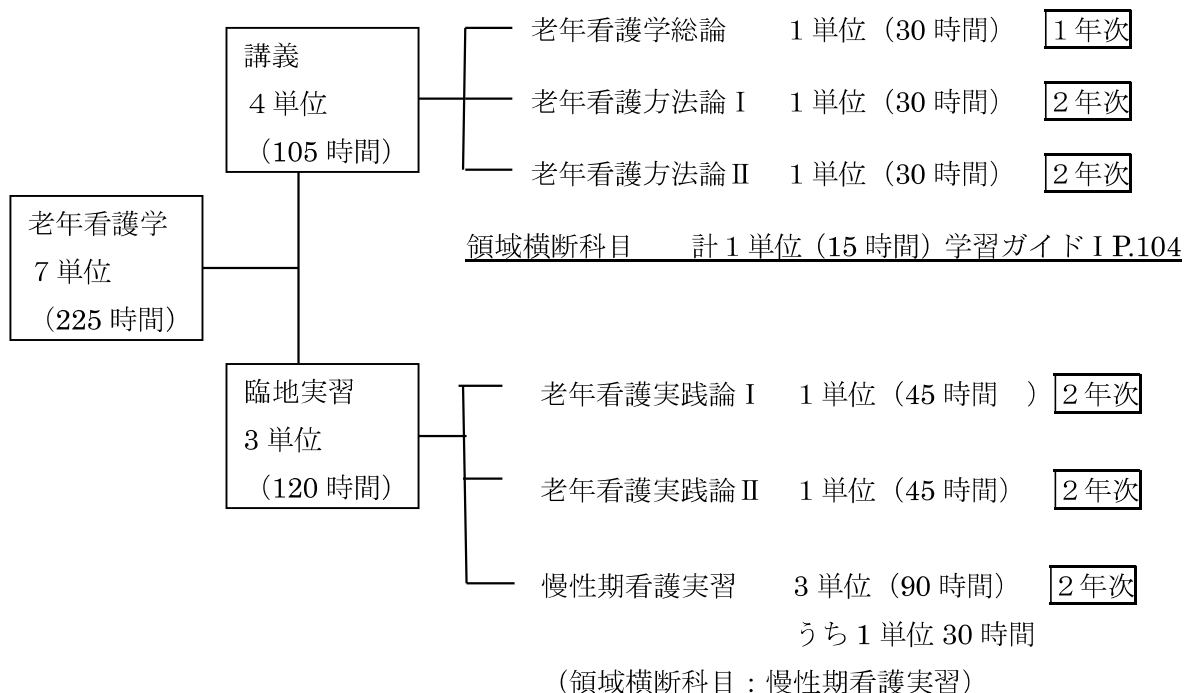
2. 老年看護学の目的

老年期にある対象と家族に対し、健康の保持・増進、疾病の予防・回復に向けての看護を実践できる能力を養う。

3. 老年看護学の目標

- 1) 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を説明する。
- 2) 老年期にある対象を支える保健、医療、福祉制度を説明する。
- 3) 発達課題をふまえ、健康状態に応じた対象およびその家族に対する看護の方法を考え実践する。
- 4) 対象の価値観を尊重する態度を身につける。

4. 構成



学科目 (単元)	老年看護学総論	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	前期
目的	・老化が身体的・精神的・社会的にどのような変化をもたらすかを理解した上で、高齢者をとりまく環境と社会の考え方を知り看護に活かすことが求められる。過去は長く、未来の短いことを認識して生活している高齢者の思いを知り、老年期にある対象に届くコミュニケーションを培い、安全・安楽・自立・予防的側面を常に考え、看護実践に活かす素地を学ぶ。 ・様々な経験に裏打ちされた知識や実績を豊富にもつ高齢者に対して、対象の価値観・生活習慣を知り、親しみと尊敬の気持ちをもって、援助できることが望ましい。知識を深め活用できるように身につけることを目的とする。						
到達目標	・高齢者の定義をふまえ、理論から老年期の発達課題、統計的特徴を説明する。 ・高齢者の身体的特徴を、高齢者模擬体験をふまえて述べる。 ・老年看護の倫理として、高齢者虐待、安全確保と身体拘束、アドボカシーについて説明する。 ・認知症高齢者と生活する家族の思いと家族への支援について考えを述べる。 ・高齢者に関する社会制度と生活を支える仕組みを説明する。 ・高齢者の疾病の特徴や身体的変化をもとに、災害時の看護、高齢者の機能低下と事故の関連性について説明する。 ・老年看護の目標をふまえ、老年看護に携わる者の責務を説明する。						
授業計画	1. 高齢者の定義と、老年期の発達課題 2. 高齢者に関する統計的特徴及び、有訴者率、通院者率、受療率の特徴 3. 高齢者の高齢者疑似体験、高齢者が日常生活で感じている怖さ、不自由さ(演習) 4. 高齢者の特徴をふまえた看護 高齢者の疾患の特徴、恒常性と4つの力の変化、フレイル、サルコペニア 5. 高齢者の特徴をふまえた看護① 加齢によって起こる変化(GW) 6. 高齢者の特徴をふまえた看護② 加齢によって起こる変化 7. 日常生活を支える基本動作と看護ケア① 高齢者の身体機能の変化による運動機能への影響 高齢者に多い転倒・転落を予防するためのアセスメントとケア 8. 日常生活を支える基本動作と看護ケア② 高齢者の身体機能の変化による運動機能への影響 高齢者に多い転倒・転落を予防するためのアセスメントとケア 9. 高齢者に関連する社会制度の実際と、高齢者の生活を支える地域の支援 高齢者の生活を支える仕組み 10. 高齢者の生活を支える実際 アクティビティケアとは(演習) 11. 高齢者の権利擁護：高齢者虐待、アドボカシー、ノーマライゼーション 12. 高齢者の特徴をふまえた看護 災害時の事例、リロケーションダメージ、生活不活発病、事故対策 13. 認知症高齢者と生活する家族の思い、ユマニチュード 14. セルフケアの定義と老年看護の役割 セルフケア理論を活用し、患者のセルフケア能力に合わせた援助 老年看護の役割 エンパワメントを生み出すための関わり 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義・グループワーク、演習を多く取り入れ、学習します。						
履修上の助言	テキスト、プリントを使用します。テキストは事前に目を通しておいください。 新聞を読み、学生の地域の広報誌に目を向け、高齢者に対する情報を得ておいください。						
テキスト参考書	系統看護学講座 老年看護学 ナーシンググラフィカ 老年看護学2 高齢者看護の実践			医学書院 メディカ出版			
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	老年看護方法論Ⅰ	講師名	学内教員 外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	前期
目的	この科目では、加齢に伴う主な機能低下や高齢者特有の健康障害、多くみられる症状・治療・検査に対するケアや看護を学ぶ。これらを学ぶことによって、老健実習（老年看護実践論Ⅱ）や病院実習で高齢者を受け持った際に、高齢者の健康状態をアセスメントし、対象にあわせた看護を実践できることを目的とする。						
到達目標	・日常生活を営む上での高齢者の特徴（加齢による機能低下、病的機能低下）を説明する。 ・高齢者特有の加齢に伴う主な健康障害や症状・治療・検査に対するケアや看護を述べる。 ・高齢者の健康状態をアセスメントし、その対象にあわせた看護を展開するための基本、実践のための看護援助の基本、高齢者の健康障害に着目した看護の原理について述べる。						
授業計画	1. 生活リズムと看護ケア 高齢者にしばしばみられる睡眠障害と生活リズムの調整 2. 食事と看護ケア 高齢者の栄養と食生活、栄養投与法（胃瘻からの経管栄養注入・胃管挿入と固定） 3-4. 摂食、嚥下障害のある高齢者に多い症状と看護（4時間） 摂食嚥下のメカニズム、高齢者の摂食嚥下の特徴とアセスメント 高齢者の摂食嚥下障害の看護と評価、摂食嚥下リハビリテーション 5. 排泄と看護ケア 老化による排泄機能の生理的・病的低下、高齢者に多い排泄障害と対応（失禁・便秘） 6. 清潔と看護ケア 高齢者の皮膚の特徴・高齢者に多い臨床症状（老人性皮膚掻痒症）、安全な入浴への援助 7-8. 褥瘡のある高齢者に多い症状と看護（4時間） 褥瘡の定義・発生機序、褥瘡予防、褥瘡の治療、褥瘡の発生予測・発生予防 褥瘡リスクの評価、褥瘡発生後の看護の実際 9. 脱水のある高齢者の症状と看護 加齢による脱水症の病態と要因、脱水症のアセスメント、脱水症の予防と援助 10. 薬物療法を必要とする高齢者の看護 加齢に伴う薬物動態の変化と薬物動態による有害反応、高齢者の薬物療法の特徴と看護 11-12. 認知症のある高齢者に多い症状と看護（4時間） 認知症の定義、基本構造、認知症の診断・治療と予防、認知症の評価方法 認知症高齢者とのコミュニケーションの基本と看護の実際 13. 手術療法を必要とする高齢者の看護 手術を受ける高齢者の特徴、術後せん妄の要因・誘因とメカニズム、看護のポイント 経皮内視鏡的胃瘻増設術（PEG）の概要、合併症 14. 胃瘻を造設した高齢者の看護 経管栄養における高齢者の特徴とケアの必要性 PEGの管理と栄養管理法（栄養注入ルート）の選択、高齢者に関する栄養評価の方法 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義、グループワーク、演習						
履修の助言	テキストは該当箇所を受講前に目を通しておいください。 老年看護学総論で学習した内容について復習しておいください。						
参考文献	系統看護学講座 老年看護学 ナースンググラフィカ 老年看護学2 高齢者看護の実際 根拠と事故防止から見た老年看護技術 ※参考書 生活機能からみた老年看護過程 医学書院 メディカ出版 医学書院 医学書院						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	老年看護方法論Ⅱ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	2 年	後期
目的	事例の看護過程の展開を通して、科学的・論理的思考能力を養う。特に加齢に伴う心身の変化、様々な健康レベルにある老年者の生活像を理解し、望ましい生活への援助について学ぶ。 また、高齢者をイメージ化でき、対象を尊重しながら、自立を促す具体的な援助について考えることを目的とする。						
到達 目標	・対象の加齢に伴う変化や対象（家族も含む）の生活をふまえアセスメントし、看護上の問題を抽出する。 ・個別性のある視点で看護計画を立案する。 ・援助時に予測される危険について述べる。						
授業 計画	1. 老年期の看護過程の展開（講義） 高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方、高齢者の総合的機能評価（CGA） 2. 病院における老年期の看護過程の展開と施設における看護過程の展開について 3. 施設で生活する高齢者の実際：DVD 視聴 4. 施設における老年期の看護過程の展開（GW）事例の情報整理 5. 施設における老年期の看護過程の展開（GW） 1）生理的様式のアセスメント：簡易アセスメントによる全体把握（GW） 6. 施設における老年期の看護過程の展開（GW） 2）認知・社会面のアセスメント 7. 施設における老年期の看護過程の展開（GW） 1）・2）の情報・アセスメントの統合 8. 施設における老年期の看護過程の展開 看護介入計画立案①（GW） 9. 施設における老年期の看護過程の展開 看護介入計画立案②（GW） 10-11. 施設における老年期の看護過程の展開 ③（演習） 12. 施設における老年期の看護過程の展開 ④ 結果・評価 13. 施設における老年期の看護過程の展開 ⑤ まとめ 14. 施設実習のまとめと講義全体のまとめ 15. 学習時間あり・単位認定試験						
方法 教育	講義、グループワーク、演習						
履修 助 上の 言	看護過程の復習をしてください。 解剖生理学、病態治療論、老年看護学総論、老年看護方法論Ⅰと関連があります。 各自、自己学習を行い受講してください。						
履修 要件	看護技術論Ⅰ 単位修得 看護技術論Ⅱ 単位修得 老年看護学総論 単位修得						
参 考 書・ テ キ ス ト	系統看護学講座 老年看護学 ナーシンググラフィカ 老年看護学2 高齢者看護の実践 根拠と事故防止から見た老年看護技術 ※参考書 生活機能からみた老年看護過程			医学書院 メディカ出版 医学書院 医学書院			
評 価 方 法	筆記試験 ※授業概要参照						

学科目 (単元)	老年看護実践論Ⅰ (地域で生活する高齢者を支える看護)	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 45 時間	2 年	前期
目的	地域で生活する高齢者との関わりをとおり、高齢者の理解を深める。高齢者の健康を維持し、生活を可能にするための施設および、行われている支援内容を学ぶ。						
到達目標	・ 高齢者を取り巻く社会支援（老人福祉センター）について気づきを示す。 ・ 高齢者の身体的特徴や生活行動の具体例を列挙する。 ・ 通所介護サービスの実際や対象について気づきを示す。 ・ 高齢者の健康管理の実際と通所介護における看護の役割について解釈を述べる。 ・ 高齢者の特徴を考慮した関わり方を学び、老年看護の基礎となる態度を見出す。						
授業計画	1 実習時間 45 分 1. 【老人福祉センター】（23 時間） 老人福祉センターを利用している高齢者と関わることで、身体的特徴や生活行動等を、コミュニケーションを通して理解する。また、難聴・視力低下などの加齢に伴う身体的特徴を考慮した関わり方を学び、老年看護の基礎となる態度について理解する。 2. 【通所介護】（22 時間） 通所介護サービスの概要と行われている看護の実際を学ぶ。 通所している高齢者と関わり、高齢者の理解を深める。						
教育方法	臨地実習						
履修上の助言	実習オリエンテーションには必ず出席してください。 各施設の役割と利用する高齢者の健康レベルについて事前学習をして臨んでください。 親しみと尊敬の気持ちをもって高齢者に関わり、高齢者の理解を深めてください。 必要な記録物などは指定された期日に提出してください。						
履修要件	老年看護学総論 単位修得 基礎看護実践論Ⅰ 単位修得 基礎看護実践論Ⅱ 単位修得						
テキスト・参考書	系統看護学講座 老年看護学 ナースンググラフィカ 老年看護学2 高齢者看護の実践 根拠と事故防止から見た老年看護技術 生活機能からみた老年看護過程 医学書院 メディカ出版 医学書院 医学書院						
評価方法	実習評価表 参照						

学科目 (単元)	老年看護実践論Ⅱ (施設で生活する高齢者を支える看護)	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 45 時間	2 年	後期
目的	疾病・障害をきたした高齢者を対象に生活適応への援助を考察し、多職種との連携や看護職の役割について学ぶ。						
到達目標	【介護老人保健施設】 ・介護老人保健施設の特徴を把握し、対象の身体・心理・生活背景の特徴を説明する。 ・対象にあったコミュニケーションの方法を考え、関わる。 ・対象に行われているサービスの実際を知り、意味づける。 ・介護老人保健施設のチームアプローチにおける看護師の役割を考える。 【認知症高齢者疑似体験】 ・認知症高齢者の体験している心理（内的な世界）を経験する。 ・認知症高齢者に対する関わりについて考えを述べる。						
授業計画	1 実習時間 45 分 1. 【介護老人保健施設】(41 時間) 介護老人保健施設に入所している高齢者を受け持ち、対象の理解を深める。 対象に行われているサービス・看護の意味を理解する。 介護老人保健施設における看護師の役割、他職種との連携を学ぶ。 2. 【認知症高齢者疑似体験】(4 時間) 認知症高齢者の体験している心理（内的な世界）について疑似体験を行う。						
教育方法	臨地実習						
履修上の助言	実習オリエンテーションには必ず出席してください。 各施設の役割と利用する高齢者の健康レベルについて事前学習をして臨んでください。 親しみと尊敬の気持ちをもって高齢者に関わり、高齢者の理解を深めてください。 必要な記録物などは指定された期日に提出してください。						
履修要件	老年看護学総論 単位修得 老年看護方法論Ⅰ 履修 老年看護方法論Ⅱ 2/3 以上出席 基礎看護実践論Ⅰ 単位修得 基礎看護実践論Ⅱ 単位修得 基礎看護実践論Ⅲ 履修 老年看護実践論Ⅰ 履修						
テキスト・参考書	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学 2 高齢者看護の実践 メディカ出版 根拠と事故防止から見た老年看護技術 医学書院 生活機能からみた老年看護過程 医学書院						
評価方法	実習評価表 参照						

小児看護学

1. 考え方

小児看護の対象である小児は、社会の一員として、無限の可能性と個性を持ちつつ生活している人間であり未来を担うかけがえのない世代である。小児期は成長・発達の途上にあり人として生活していく基盤を形成する時期であり、様々な環境との相互作用は人間形成に多大な影響を与える。

小児期は依存と自立の過程にあり親、家族、社会の養護が必要であるが、子どもなりの力を持っており、小児はその能力を十分に伸ばすと共に独自の個性を尊重されなければならない。親、家族及び地域、社会は小児が健全な発育を遂げるために必要なよい環境を整えなければならない。

小児看護は小児の健全な成長・発達に責任を持ち、あらゆる健康状態にある小児が各自の能力を十分に発揮し、個々にあったより良い生活を送ることができるよう、援助を行うことである。

子どもの心身の状況や生活状況を判断し、子どものもつ能力と可能性を最大限に引き出し、その子どもと家族にふさわしい生活を提供する責任がある。その役割と責任を身につけるために、小児看護学は小児期の特徴や小児をとりまく社会、親及び家族を含む対象を理解し小児の状況にあった看護援助を行うための基礎的知識、技術、態度を養うことを目的とする。子どもと家族が体験していることに寄り添い、子どもと家族の最善の利益を守る専門職業人として自ら学ぶ態度を養うことをめざしている。

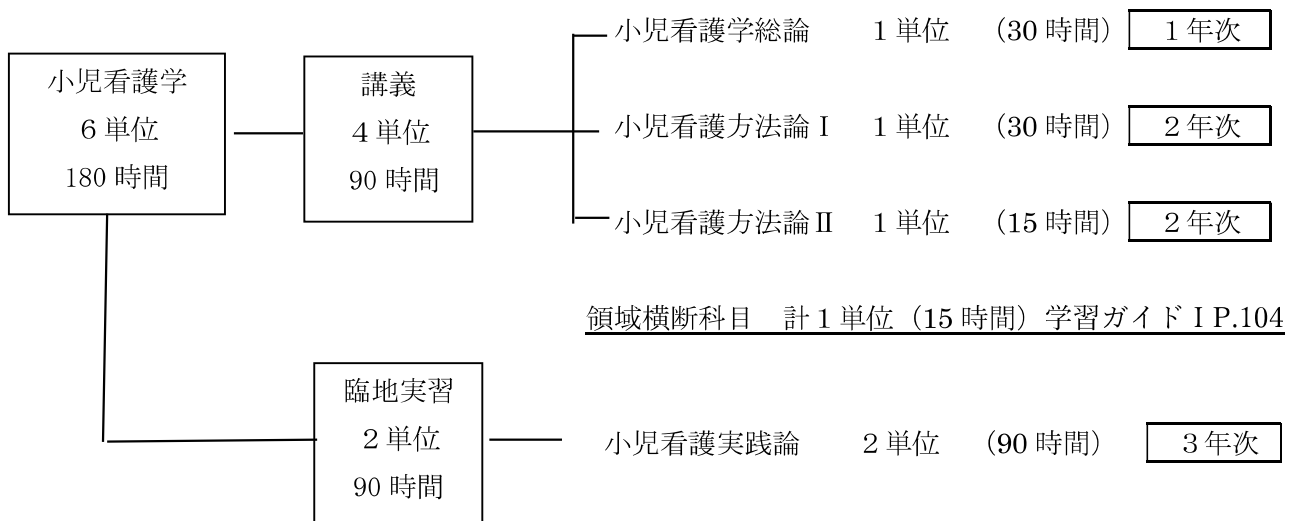
2. 目的

小児看護学の学習を通し、あらゆる健康レベルにある小児とその家族の状況にあった看護活動を行うための基礎知識・技術・態度を習得する。

3. 目標

- 1) 子どもの人権と基本的倫理に基づいた看護を説明する。
- 2) 子どもの成長・発達を説明する。
- 3) 小児各期の特徴に適した生活と養護について説明する。
- 4) 子どもをとりまく社会的状況とその動向、および子どもの成長発達を促し、健康の保持、増進、病気の回復を促すための看護活動を実践する。
- 5) 子どもと家族が、最善の利益を得ることができるための関わりを実践する。
- 6) 小児看護に必要な基本的な看護技術を身につける。

4. 構成



学科目 (単元)	小児看護学総論	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	後期
目的	・子どもの特徴や成長発達、子どもを取り巻く環境の意義、子どもの人権について理解し、子どもの存在や小児看護の役割について学ぶ。 ・現在の社会や家族の問題が子どもの健康に及ぼす影響を理解し、子どもが健やかに成長発達することについて考える。						
到達目標	・小児の成長発達の順序性を説明する。 ・各発達段階の特徴を踏まえた関わりを具体化する。 ・子どもと家族にとって最善の看護を考える上で基盤となる知識を習得する。						
授業計画	1. 小児看護の特徴と理念 2. 子どもの権利 3. 子どものコミュニケーションの特徴 4. 成長・発達の基本的知識 5. 小児看護で必要な発達理論 6. 乳児期の特徴と世話 7. 幼児期の特徴と世話① 8. 幼児期の特徴と世話②日常生活の自立に向けた支援 9. 学童・思春期の特徴と世話 10. 子どもの起こりやすい事故と対策 11. 小児の栄養① 12. 小児の栄養② 13. 子どもの遊びの意義 14. 小児と家族を取り巻く社会環境と動向 家族の特徴 小児と家族の諸統計 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義・演習・グループワーク						
履修上の助言	小児看護学は、自分の成長発達してきた道すじを洞察する機会にもなります。まず、身近な子どもたちに目を向けて子どもの理解につなげましょう。 子どもの育つ環境は時代とともに変化しています。子どもを取り巻く社会の動向に目を向け意識してテレビや雑誌に目を通し、子どもの育つ環境に関心を寄せましょう。						
テキスト・参考書	系統看護学講座 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 看護のための人間発達学 パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 医学書院 医学書院 医学書院 照林社						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	小児看護方法論Ⅰ	講師名	学内教員 外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	2 年	前期
目的	- 健康障害で入院する子どもと家族に及ぼす影響を理解し、子どもの健康段階に応じた看護の方法を学習する。 - 状況に適した基本的な小児看護技術について学び、子どもと家族に最善な看護を考える。						
到達目標	- 健康障害を持つ子どもの状態を成長発達や理論に基づいて説明する。 - 健康段階に応じて必要な子どもと家族の看護について説明する。 - 健康障害を持ちながら成長発達する子どもの持つ力を引き出す看護を表現する。						
授業計画	- 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響と看護 - 外来受診をする子どもと家族の看護 - 小児病棟で起こりうる事故とその対策 - 先天性疾患の子どもと家族の看護 - 小児の周手術期看護 - 急性期の子どもと家族の看護 - 子どもの事故と救命救急 ① - 子どもの事故と救命救急 ② - 障害を持った子どもの生活と看護 - こころの健康障害を持った子どもと家族の看護 - 慢性期の子どもと家族の看護 - 検査・処置を受ける子どもと家族の看護 - 心理的準備とプレパレーション - 事例をもとにプレパレーション計画・演習 - 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義 演習						
履修上の助言	小児病態学、小児看護学総論の学習内容の理解が大切です。これらの授業でのノート・資料・学習内容を基に健康障害のある子どもと家族の看護について学んでいきましょう。臨床で小児看護に携わる看護師より講義を予定しています。臨床での事例を多くお話し頂けると幸いです。興味関心をもって積極的に授業に臨みましょう。						
テキスト参考書	系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児臨床看護総論 系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 医療安全ワークブック 看護のための人間発達学 パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 照林社						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	小児看護方法論Ⅱ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 15 時間	2 年	後期
目的	- 事例を通して子どもと家族に必要な看護につながる考え方を学ぶ。 - 設定した場面の演習を通してアセスメントし行動する能力を育成する。						
到達目標	- 事例をもとに、看護過程を通して子どもと家族にとって必要な看護について考え、記述する。 - 事例をアセスメント（情報収集から情報の分析）し、子どもの全体を図式化することにより、子どもがどのような状況にあるかを考え、解決すべき問題（看護診断）を明確にする。 - 事例の病態、発達段階、個性性をアセスメントし看護介入を考え、記述する。 - 設定場面から子どもに起きていることは何かを観察し、看護に必要な行動がとれる。						
授業計画	- 経過記録(1)の注目した情報・情報の分析・目標・看護介入① - 経過記録(1)の注目した情報・情報の分析・目標・看護介入② - 経過記録(1)の発表 事例を基に行動のアセスメント、刺激のアセスメント、看護診断 - 診断と優先順位の思考をについてカテゴリーの共有・検討・発表準備 - 看護診断発表。事例を基に全体像の作成 - 全体像発表し学びの共有と演習 - まとめ - 単位認定試験（学習時間なし）						
教育方法	グループワーク・グループ発表・講義、演習						
履修上の 助言	- 事例を理解するために、病態と機能障害、治療、子どもの成長発達、等について十分な知識を自己学習したうえで授業に臨んでください。 - 看護過程の基本的な考え方を復習し、小児看護の特徴を重視した看護過程の考え方を学んでいきましょう。						
履修要件	看護技術論Ⅰ 単位修得 看護技術論Ⅱ 単位修得 小児看護学総論 単位修得						
テキスト 参考書	系統看護学講座 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護学総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 照林社 看護のための人間発達学 医学書院						
評価方法	筆記試験・提出物						

学科目 (単元)	小児看護実践論	講師名	学内教員	単位 (時間)	2単位 90 時間	3 年	全期
目的	・子どもとの関わりを通して成長発達する子どもの特徴を理解する。また、健康障害を持つ子どもと家族の特徴を理解する。 ・子どもと家族が必要としている看護を考え、看護を行うための基本的知識、技術、態度を身につけ、小児看護における看護実践能力を養う。						
到達目標	【病棟実習】 ・子どもに関心をもって関わる。 ・健康障害や入院が子どもの成長発達におよぼす影響を説明する。 ・健康障害や入院が子どもと家族におよぼす影響を説明する。 ・子どもと家族の状況に応じた看護を実践する。 ・子どもの事故防止・安全を理解し行動する。 【保育園実習】 ・子どもに関心をもって関わる。 ・子どものコミュニケーションの特徴について説明する。 ・発達段階に合った基本的生活習慣の自立への援助を実践する。 ・子どもの身体的・精神的・社会的な成長発達を説明する。 ・子どもの安全についての環境や工夫を実践する。 ・子どもが育つことについて自己の考えを文章化する。						
授業計画	1 実習時間 45 分 オリエンテーション 2 時間 【病棟実習 (64 時間)】 健康障害を持つ子どもとの関わりを通して子どもの特徴を理解し、子どもとその家族の看護を考え実践する。病棟で1名を受け持ち、看護過程を展開する。 【保育園実習 (24 時間)】 保育園で生活している子どもたちとの関わりを通して、子どもの健やかな成長発達を考える。学生個々が発達段階の異なるクラスで実習し、学びを共有する。						
教育方法	臨地実習						
履修上の助言	既習学習を活用しながら、子どもの理解を深めていきましょう。子どもとの関わりを通して、感じたこと考えたことを看護に活かしてください。						
テキスト・参考書	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 小児臨床看護各論 パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 看護のための人間発達学 看護診断ハンドブック				医学書院 医学書院 照林社 医学書院 医学書院		
評価方法	実習評価表 参照						